

平成27年 7月21日発行

まなざし

横手清陵学院PTA会報

発行 秋田県立横手清陵学院中学校PTA
秋田県立横手清陵学院高等学校PTA
編集 横手清陵学院PTA広報部



子供達のために
高等学校PTA会長
小松 俊 晴

この時期、子供達は大きく知識が増え感性も磨かれ、難しい年頃だと思っています。子供達を取り巻く環境は日々変化し、安全を脅かす事案が年々増加し私達が高校生の頃には考えられない様な事がニュースで伝えられています。PTA=Parent Teacher Association 親(Parent)と教師(Teacher)の組織(Association)で協力して子供の健全な成長を見守る事が必要ではないでしょうか。

年々PTA活動の参加者が減少しているようですが、「家庭と学校」「学校と地域」「地域と家庭」をつなぐ子供達を中心に置いた地域活動を活性化させ「子供たちのために」を大前提に活動することが必要だと思っています。

高P連の活動方針の中に「保護者、子ども、共に一人の人間としての生き方、キャリアデザインを考える」とあります。勉強・部活動を通して精神・身体を鍛え人間性を磨く、学んだ事を世の為に生かす、など構想を主体的にデザインする、社会人としてどう生きるか、どんな形で世の中に貢献したいのか、しようとするのか、を考えることだと思います。

「子は親の背中を見て育つ」と言われますが、PTA活動を通して他人や他人の子供、お世話になっている地域のために協力的に活動する姿を子供に見せるのも大きな意義があるのではないかと思います。

「子供達のために」より良い活動にご協力をお願いいたします。



協 同 一 致
中学校PTA会長
高安 秀 人

今年度、清陵学院に入学された皆さんに心からお祝いを申し上げます。これからの長い人生における、この3年間・6年間はとても大事です。それぞれの目標・将来像を定めそれに向かい挑戦されるとともに、学びと遊びを通して将来の荒波に耐える人格と友人を作ってください。

そして、自分の力を信じ夢に向かって挑戦し続ける清陵生が安全に安心して学び学校生活を楽しめるよう私たち保護者は「協同一致」し先生方・地域の皆さんと一丸となり、子どもたちのためならどんな苦勞も惜しまない覚悟で事にあたります。

終わりに、「楽しい子育て三行詩 全国キャンペーン」優秀作品の一部を紹介します。家族のきずなが更に深まれば幸いです。

◆中学生の部

●「来ないでよ」言ってるわりに母探す てれくさいけどありがたい 日よう参観

●あんたはな あんたのままでいいんやで 他人(ヒト)の言うこと気にするな 母の言葉にすぐわれる

◆一般の部

●同じように育てても 同じようには育たない 子供の数だけ楽しみがあり 子供の数だけ夢がある

●ついに この日が来た 息子のお下がり 俺が着る



接戦を制する力
校長
谷 口 敏 広

保護者の皆様には、日頃、本校教育活動に御理解、御協力を頂きありがとうございます。

さて、市、県南、全県、東北の各大会が行われましたが、それぞれにおいて生徒達は粘り強く良く頑張ってくれました。そうした中で、高校バドミントン会場で接戦を幾度と見て感じた一考。

個人戦のトーナメント上位戦になると、さすがに技術、体力、精神面においてほとんど差がなく、接戦になる試合が多々あります。そして、どちらかに勝利がもたらされます。さて、その凌ぎ合ひの中で勝利する力とは何なのでしょう。試合の流れの中で強気、弱気になる心が交錯します。それを制する力とは。最後まで諦めない気持ち。勝ちたいという気持ち。強気な攻めの気持ち。強い精神力。それはどうすれば得られるのでしょうか。高い目標を掲げて猛練習をして乗りこえれば得られるのでしょうか。実は、日頃の練習の中にあるのではと考えました。こうしよう、ああしようと自分で決めた小さなルール(約束事)。それを毎日徹底してやり通したらどうなるでしょうか。今日は体がだるい、練習に気持ちが入らない。それじゃ軽くやろうか。ではなく、どんなコンディションの時でも自分で決めたことをきちんとやり通す。自分の心に嘘をつかずにやり通すことで得る事ができるのではないかと考えています。

生徒達に身に付けさせたい力の一つです。

清陵生の活躍

親の感動

部活動に期待

子どもが中学・高校時代は“親バカ”でいいのです。
今何ができるか…我が子と一緒に親も成長しよう！

剣道部の素敵な面々

高校剣道部保護者 栗津

敦

公式戦初勝利を

目標に今年度のスタートを切った高校剣道部。6月の全県総体まで惜しくも目標達成とは成らなかったが、後に大きな期待を持たせてくれたメンバーの紹介をしたと思う。まずは成長著しい1年生から。

初心者ながら恵まれた体躯と人倍の努力で次鋒を務めたT君。冷静な試合運びと非凡なセンスで副将を務めたM君。技の切れが益々研えてきた紅一点のSさん。続いて新チームの主体となる2年生。獲得本数はチームで一番。先鋒の責務を見事に果たしたY君。中堅の難しい順位を試合の流れを読む分析能力で見事守り切ったH君。先輩マネージャー不在のなか、アイデアと行動力で陰に日向にと部活動を支えてくれたSさんとFさん。そしてひと区切りついた3年生。今は亡き剣道の恩師から初めて習った技で勝負に賭けたA君。一本にはならなかったが、君らしい幕の引き方が清々しかった。



最後に、惜しみないご指導とご協力を頂いた先生方、保護者の皆さんに感謝し、今後の清陵剣道部の大活躍を楽しみにしているファンの一人に加えて頂こうと思っている。

自己表現すること

高校美術部保護者 佐々木 康子

まだ息子が幼稚園に入るか入らないかの頃、歳の離れた兄が居間のテーブルで宿題をやっていると、自分も隣に座り見よう見まねでノートに何かをよく描いていた。次から次へと描くのでノートはすぐに無くなり、色紙や七夕の短冊にまで描いていた。「地球なのに人間がいなかったから」という理由で、兄の地球儀に棒人間を描いたこともある。しかも油性ペンで。本人は、「覚えていない。」と言うが、何しろ物はたくさん残っていて、今となつては懐かしい思い出の品々である。

文章を書いたり音楽を奏でたり絵を描いたりすることは自己表現の一つである。競泳をやっていた頃によく聞いた「試合での最高の



パフォーマンス」という言葉は今一つピンとこなかったが、作品に向き合うことは、それこそパフォーマンスなのだと思う。好きなジャンルは人それぞれであるだろうが、美術という巨大な枠を超えるほどの自己表現を存分にしてほしいと思っている。

サッカーの感動をありがとう

高校サッカー部保護者 後藤 和也

「サッカー部は人数が少ないので、入部したらすぐにレギュラーになります！」体験入学で聞いたその一言で清陵中学への入学を決めた息子。

当時は部員も少なく、大会に出場しても最下位争いだったと記憶している。人数が足りない時は、ロボット部から選手を借りて出場していた頃だ。しかし、中学2年の時に奇跡的に部員が11人になり新人戦で県大会に出場する事ができた。ベンチには顧問の先生が1人いるだけの淋しい光景だったが、子供達の努力が報われた気がした。

高校生になると部員も増え、さすがにベンチに顧問の先生が1人ということとはなかったが、自分達で戦略を練り、考えながらサッカーをするスタイルは難しかったかもしれない。だがそれも子供達にとっては良い経験になったのではない



だろうか。これからは、今までの経験を生かし次のステージで頑張っほしい。指導して下さった顧問の先生や部員、保護者の皆様に感謝致します。泣いて笑って雄叫んでサッカーの感動をありがとう。



部活を通じた子供の成長

中学校国際文化部保護者 柿崎 瞳子

国際文化部は、英語活動を主としています。

どのように…ということになると、まずは文化祭での英語劇。昨年は「ベンゼルとグレート」を演じました。英語で台詞を話すほかに、身振り手振りを交えての演技もあり、観客におもいを伝えようとする子どもたちの一生懸命さが伝わってきました。今年は、「シンデレラ」とのこと。すでに準備が始まっているようです。国際文化の魅力あふれる、素敵な「シンデレラ」が見られることを、とても楽しみにしています。

また、暗唱弁論大会にも出場しています。静まり返った会場での発表は、心臓が飛び出るほ



どだったとの息子の言葉に、かなりの緊張感があることを感じました。一人一人に審査員の先生方から具体的なアドバイスがあり、ネイティブの発音に近づく、大きな二歩を踏み出すきっかけをもらったような気がしました。



部活動を通じ、仲間と共に成し遂げる喜びや、大勢の前で話をする度胸がついたように思います。今後仲間を大事にしながら、自分たちの頑張りを積み重ねて、活躍の場をどんどん広げていって欲しいと思います。

部活を通じた子供の成長

中学校男子バスケットボール部保護者 藤谷 敏恵

横手清陵学院中学校男子バスケットボール部と共に歩んで5年…と言うのも、高2の長男が入学してからお世話になっております。先輩達の背中を追い次は自分達が後輩を引っ張り、その中にはそれぞれの学年のカラーがあるんだなあと思いました。

現在中3の次男は、今まさに最後の総体を目前にし



ています。夏の暑い日も体力作りで走り込み、冬は筋トレに励みました。少人数だった為まともに5対5も出来ない状態から、昨年は8名の新人部員を迎え後輩達と挑んだ新人戦。3位入賞という結果を残す事が出来ました。



「まなざし」の原稿依頼を受け「子供が学んだ事や成長」という内容でしたが、ここまでの成長は難しいなあと思いました。なぜなら彼らは今学びの途中で、成長の真の最中。これからの経験や知識を吸収して成長していくはず。陰から見守り応援していきたいと思っています。

challenge & smile

中学校女子ソフトテニス部保護者 岡田 仁

いつも笑顔が絶えない明るく活発な3年生9名、先輩思いで頑張り屋2年生3名、新戦力期待の星1年生4名を加え、27年度 16名でスタート。2年生の部員不足で秋の新人戦団体戦に参加出来るか心配していたが、1年生4名が加わり「安心」。3年生9名を紹介する。コースを狙います。キャプテン・4種類のサーブを打分けける瑛美・どんなボールも諦めず追う未空・強烈なボレー有希・切れ味抜群のカットサーブ梨奈・高速サーブの里々香・元気で明るいチームのムードメーカー優華・ドロップショットの彩乃・カットレシーブの遥奈 個性派揃いの3年生だ。

娘がソフトテニス

部に入部して半年、1年生大会で2ペアが全県大会出場これから先を期待されて挑んだ2年秋の新人戦、ライバル校にジュニア時代からの経験者スパー1年生が現れる。個人戦、団体戦とも全県出場を逃す。3年



春、二週り技術的、精神的に成長して挑んだ春季大会。あと一步の所まで来てるが勝てず。春季大会が終わってからの、このままじゃ勝てないと感じたのか…3年生の仲間同士で居残り、休日練習、個人練習をしている姿を見て熱い思いを感じた。勝ちたいという想い、やらないで後悔したくない、やれることをやって悔いを残したくない想いが、無言ながら伝わってきた。ソフトテニスには1人でやるスポーツじゃない、失敗しても、成功してもお互いに笑顔で称え合い、仲間を信じた動き、打ち返し、そして試合に出場していない選手からの大きな声援そんな絆の深さを見て感動した。

今までお世話になった先生、先輩、保護者方方有難うございました。高校に進学してもまた同じメンバーでソフトテニスが出来たら嬉しい。



文化部の活動について

高校文化部長 佐藤 明美

今年度の文化部の活動は、7月4日に行われる市P連主催のバレエボール大会への参加。学校行事の環境である講演会への協力、今年は講師に本田技研元常務取締役保坂文武氏を迎え、7月16日に横手市民会館で行われます。8月1日には学校図書の整理を計画しております。



バレエの大会は、中高交えての参加になるので、練習を通じて、保護者の横の繋がりはもちろんのこと、清陵の最大の特徴である中高の壁のない縦の繋がりを持てることが出来ます。

この様に魅力的なPTAの事業部活動に皆さんも是非、参加してみてください。



校外生活指導部の活動について

高校校外生活指導部長 栗津 敦

4月8日からの「第1回さわやか清陵運動」が今年度の活動始めでした。前日、入学式を終えたばかりの新入生が緊張気味にも元氣な挨拶をかえしてくれた事が印象に残っています。

5月24日には交通安全の旗を設置しました。旗のさわやかなブルーには生徒はもちろん、送迎する家族の方や一般ドライバーの安全への関心を高めてくれている効果があると思います。6月15日からは「第2回



さわやか清陵運動」が行われました。この時期に有りがちな不順な天候を吹き飛ばすような元氣な挨拶に頼もしさと同時に安心感を覚ええました。

今後の予定ですが、9月の「第3回さわやか清陵運動」と10月の交通安全の旗の撤去になります。

「生徒が安全に登校し、無事に帰宅する。」当たり前のようですが、一番大事な事を毎日願っている家族、教職員の方々の気持ちに応えるような活動をしていきたいと思っています。



環境整備部の事業計画について

高校環境整備部長 山中 知津子

毎年道端のスイセンが鮮やかな黄色を見せ始める頃、学校の花壇は今年はどうかなと気になり始めます。



私達環境整備部は厳しい冬を乗り越えた後の暖かい日に、色とりどりのチューリップが春の訪れを感じさせてくれるようにと願い、花壇の整備を始め、球根植え・球根掘り、花植え、除草作業などの活動を行っています。

また、清陵祭では毎年大盛況のフリーマーケットを開催し、皆様に喜んでいただいで



います。これは環境整備部の活動だけではなく、皆様からの絶大なるご支援ご協力があつてこそ賜だと感謝しております。今年も清陵祭でのフリーマーケット開催を計画していますので、これまでと同様以上に皆様からの出品物の提供を心からお待ちしております。

今年度の広報活動が6月2日に開催した編集会議よりスタートしました。年3回のPTA会報「まなざし」の発行を予定しております。学校行事で頑張る子供たちの姿・PTA活動を盛り上げていく保護者の方々の声・先生方の生徒に対する思いなどが皆様に伝わるように、広報部一同が協力し合い、心に残る広報誌



広報「まなざし」で親子の絆を：

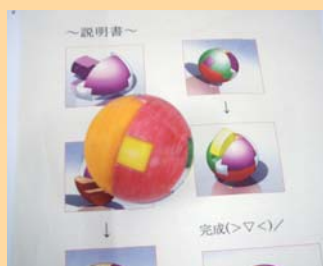
高校広報部長 佐藤 ゆかり

を作っていくかと思ひますので、取材や原稿等の依頼された際は、何卒ご協力を宜しくお願い致します。清陵学院の未だ未知なる宝の山は、どんどん取材し『発見！清陵ワールド』でフレッシュにわかりやすく掲載したいと考えております。皆様とこの広報部のPTA活動を通してコミュニケーションをかわし合い、喜んで頂ける学校報発行に心掛けていきたい思ひです。「まなざし」を通して親子の絆を深め、親子で考える時間を持つことができれば幸いです。ご要望・ご提案などは大歓迎です。お待ちしております。



発見! 清陵ワールド

3Dプリンターが 学校にあったー



ニュース等でよく耳にする「3Dプリンター」。ドラえものの秘密道具? みたいな夢のようなプリンターが世の中にあるんですね、なんて話していたら、「清陵にも3Dプリンターありますよ」という先生からの情報。そんなに珍しい物が学校にあるならぜひ見たい! ということで、某月某日 PTA 広報部員数名はその実態を解明すべく清陵学院1階会議室に集まった。

担当の先生の案内によって潜入したのは、パソコンがずらりと並ぶ「高度設計実習室」。なんでもここに噂のプリンターがあるらしい。「これです。」と紹介されたのは、電子レンジを倍ぐらいに巨大化させたうえに、高さもさらに伸ばしたような縦長の直方体の物体。正面にある横開きの透明な扉を開けると、中にはまるで陶器を焼く窯のような雰囲気が漂っている。この巨大電子レンジにパソコンがつながっており、3D CAD (スリーディーキャド) と呼ばれるソフトを使ってパソコン上に立体模型を描いたものが、実際にこの窯状の中で樹脂状の立体となって完成するのだ。聞けば、5年ほど前に3Dプリンターをパソコンとセットで購入したのが県内でも1、2番の早さだったというから、学校側のこの分野に対するやる気が伺い知れる。さらにこの3D CAD と3Dプリンターは、総合技術科のシステム類型の生徒さんは卒業時には全員使いこなせるというから、これまた驚き! そういえばこの実習室の入口付近に何やらカラフルな立体パズルが展示してあったのだが、これはまさに生徒さんたちが実習として3Dプリンターを使って製作したものだったのだ。

こんなに最新鋭のマシンで授業、子供達の将来の選択肢が大きく広がって行くんだろうなと感じました。うらやましいぞ、清陵生。

「3Dプリンター」につきまして

総合技術科 科長 五十嵐 宏 秀

「3Dプリンター」が数年前から話題になっています。

総合技術科では、5年前から実習に「3Dプリンター」を取り入れ授業やロボット関連の部品製作などで使用しております。

さて、そもそも「3D」って何? というかたもいるかもしれません。平面は縦と横 (X, Y) の2次元、これに高さ (Z) が加わった立体を3次元といいます。英語では次元のことを「Dimension」というため、立体のことを3Dというようになりました。

授業ではコンピュータ画面内に立体を製図します。つぎにコンピュータ上で製作したデータを出力するのですが、立体ですので従来のプリンターでは不可能です。そこで3Dプリンターの登場です。3Dプリンターは積層により物体をつくります。一段ずつ、溶けた樹脂を欲しい形に敷き詰めていって、立体モデルを作成していきます。等高線模型のイメージです。本校の3Dプリンターでは、最大の造形サイズ: 縦横25センチメートル高さ30センチメートルの大きさが出力出来ます。

今後、このような最新の設備技術を学んだ本校卒業生が、製造業のみならず色々な業界で活躍してくれることを期待しています。



今年も卒業生(高6期)が教育実習にやって来ました。母校に帰ってきて何を感じたのかコメントを頂いてみました。



たかが2週間、されど2週間

戸田 陽希

5月25日からの2週間で教育実習を行いました。初日は「先は長いな」と感じていたのに、最終日になると「え、終わり？」と180度違う感じ方をしていました。2週間で計9回、貴重な「授業」の体験をさせて頂き、心から感謝しております。本心から、忘れられない2週間になったという事がいえます。HRでも授業でも、先生方には勿論のこと生徒の皆様には、大変お世話になりました。短い2週間でしたが、私にとっては、大きな価値のある2週間になりました。本当にありがとうございました。



清陵学院の柱になる皆様へ

宮澤 駿太郎

教育実習生として2週間お世話になりました。とても貴重な経験ができたのだと思うのと同時に、もう少し取

り組みに力をいれておけばよかったと少し悔やまれます。さて、実際今の清陵生徒を覗いてみると、とても素晴らしい環境でのびのびと学習、部活動に励んでいると感じます。もともと校舎は新しく、設備もよいものです。その中で、当たり前のように仲間や友達と一緒に過ごすことができるこの環境に、感謝の気持ちを持ってこれからも生活していったらいいです。皆様のこれからの活躍を期待しています。ありがとうございました。



教育実習を終えて

石井 彩乃

仲間たちと切磋琢磨し合い、青春の時間を過ごした清陵に、音楽の教師を目指す教育実習生として4年ぶりに戻ってこれることができました。この3週間は、とにかく生徒の皆さんの授業に対する姿勢の素晴らしさに圧倒された日々でした。教師の発問に対する反応の良さ、生じた疑問をそのままにせず解決しようとする探究心、次々と手を挙げて意見を発表する積極性など、授業を活気のあるものにしてくれる姿を幾度となく目にしてきました。これからも、大好きな清陵の後輩である皆さんをいつまでも応援しています。



第21回 「青春回顧録」

PTA会員の方からご自身の学生時代をテーマに筆頂きました。

「ご自分の青春時代と比べてみて下さい。」

エースをねらえ

Y・T

先日娘の試合を観に行った。若き頃の自分を思い出す。

真っ黒になり、ボールを追いかけて情熱を燃やしていたっけ。となりは野球部のグラウンド。それも一つの楽しみだったような気が...

「エースをねらえ」ごっつこで、お蝶夫人は誰？

じゃあ岡ひろみは？なんていう争いもあった。娘の試合を観ていると、だんだんじれったくなり、そこはそうでなくこうだとか、「もつと走れ」なんて思ってしまう。

実はこの間何十年ぶりに私もラケットを持ち、娘とペアで戦う機会があった。頭の中ではもう昔の自分。いざボールが来てもまだイメージは打てる昔のまま。打った瞬間「スコーン」の空振り。「あれ？」と意味が分からないまま、今度はサーブ。あげた位置が微妙なおかしい。結局ラケットに当たったのは2回ほど。

「あーあ。」と娘に白い目で見られ現実に戻った。いくら何十年ぶりとはいえ、いえここまで頭と体がバラバラの行動をとるとは...なんて情けない。

これからは又あの頃を思い出し、少しずつ練習して、娘に少しでもアドバイスができればいいなとひそかに思っている。



あとがき



6月に入り、高等学校県南大会、中学校市総体、文化部の活躍を新聞などで見ると、これもひとえに先生方の熱心な御指導と生徒達の努力の結果だと思っています。

生徒達の頑張っている姿を見ると、子供が小学校に入学した当時、校長先生がおっしゃったことを思い出しました。それは、「学校は学問を学ぶ場所、保育園ではありません。子ども達に最高の教育を受けさせたいのなら、私達教師が授業に集中出来るように、保護者が協力しなければいけません。また保護者の協力なしでは、子ども達に最高の教育を受けさせることもできません。そして、礼儀作法は家庭でちゃんと躾て下さい。学校は躾の場所ではありません。」という言葉です。私は、このことを肝に命じて広報部の一員として少しでも役に立てればと思います。

また、今年も清陵生の活躍を楽しみにして居ります。



清陵ホームページ



広報部メールアドレス